

ち て き し ょ う 知的障がい



18歳さいくらいまでの発達期はったつきにおいて、知的な能力ち て き の う り よ くが年齢相応ねんれいそうおうに発達していませんはったつため、何らかの特別な援助なん とくべつ えんじょを必要とする状態ひつようです。「言葉を使う」じょうたい「記憶する」ことば「抽象的なことを考える」つかことに時間がかかることが主な特徴き お くです。

そのため、複雑な説明ふくざつや抽象的な概念せつめいを理解ちゅうしょうてきしにくいことがあったり、一度いちにたくさんのことを聞くと、混乱こんらんしてしまうことがあります。また、周囲しゅういで起きていることが理解りかいできず、混乱こんらんすることもあります。

原因げんいんが不明な場合ふめいが多く、明らかばあひな場合も人それぞれ異おおなります。障がいしょうがいの表れ方あらわにも個人差かたがあり、漢字こじんさの読み書きかんじや計算よかが苦手けいさんだったり、一つの行動にがてに固執こうどうしたり、同じ質問こしつを繰り返おなしたりする人もいますしつもん。



こんなサポートがうれしい！

ゆっくり簡単な言葉で話し掛けてください。

「一方的に話す」「ひとり言を言う」「同じ言葉を繰り返す」など、コミュニケーションがうまくとれません。

そのようなときは、内容が理解できるようにできるだけ短い文章で、身振り手振りを交え、ゆっくり簡単な言葉で話し掛けてください。

文字で伝えるときは分かりやすくしてください。

漢字や難しい表現が苦手な方もいます。難しい表現を避けて分かりやすい表現で伝えてください。また、漢字を少なくしてルビを振ったり、視覚的な絵や図を活用したりすると分かりやすくなります。

パニック行動が起きたら落ち着ける場所に誘導してください。

予定が急に変更になったり、大声で注意されたりするなど、見通しが立たないこと、予想外のことが起きると、柔軟に対応できず「泣きわめく」「飛び跳ねる」などのパニック行動が起きることがあります。このようなときは、落ち着ける場所に誘導してください。

思い込みで判断せず、見守ってください。

障がいが軽度の場合、会社で働いている人も大勢いますが、中には「通行する人を無表情で見ている」「ぴよんぴよん跳ねたりする」「一つのことこだわる」など、誤解されやすい行動をとる人もいます。思い込みで判断せず、温かい目で見守ってください。

たとえば、こんなことがあります。

知的障がいのある人の中には、コンビニやスーパーに入るとき、勝手に商品を並べ替えたり、開封したりする人がいます。また、「代金を払う」という考えが理解できず、お金を払わず、商品を食べってしまう人もいます。これらの行為を、店員に気付かれないよう「こっそりと」するのではなく「堂々と」している人を見かけたら、知的障がいのある人かもしれないので、ゆっくりと優しい口調で話しかけてください。そして、近くに家族や支援者がいないか確認してください。

